

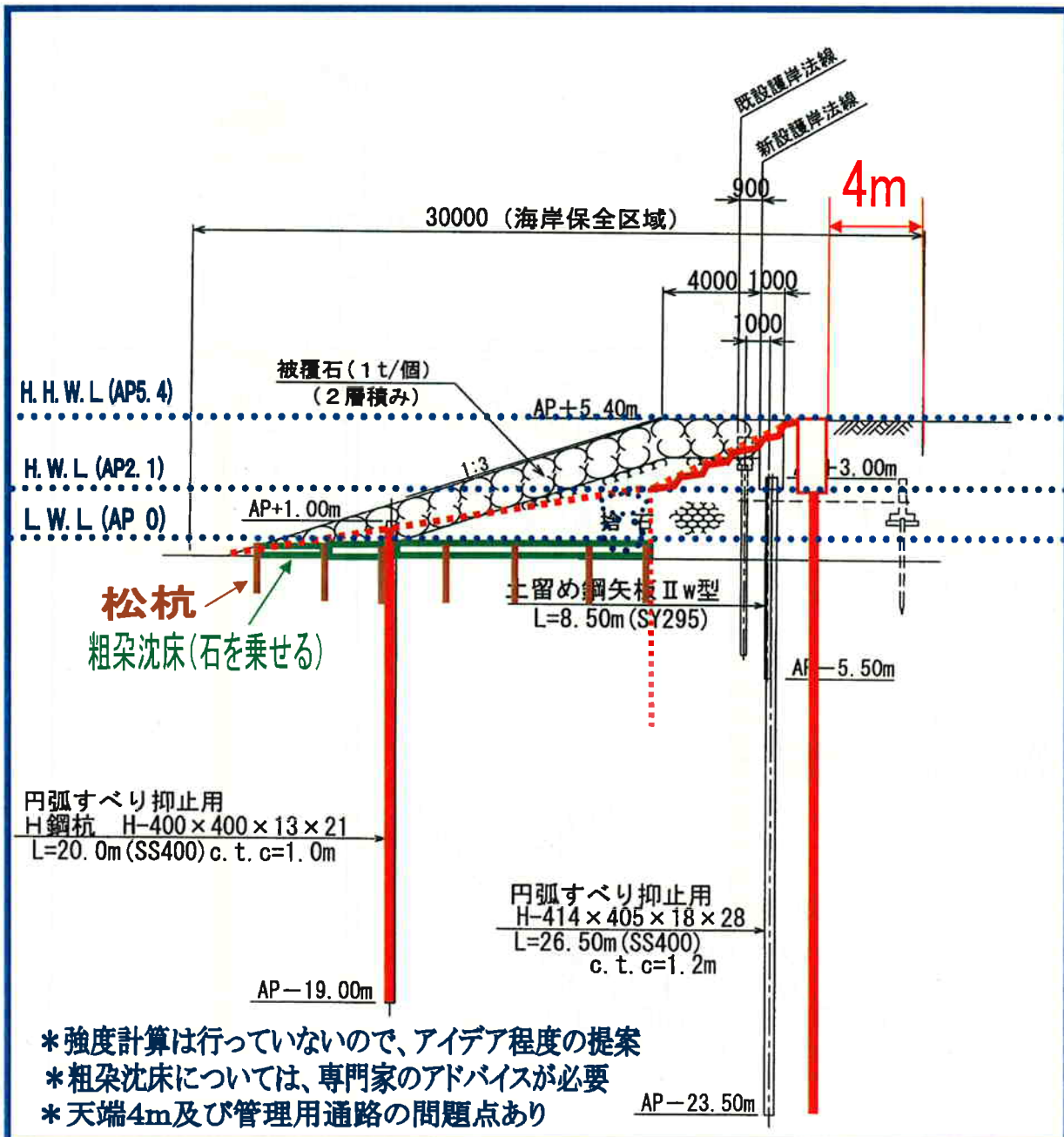
## 塩浜護岸の後藤委員私案(自然、生物、アクセス等)

## 1 護岸改善のポイント

- L. W. L. 以下については、粗朶沈床と松杭の利用
  - ・水につかたままだと、松は腐らない
  - ・粗朶沈床は土砂が付きやすい構造
  - ・粗朶沈床をおさえるために自然石を使用
- L. W. L. 以上、H. W. L. 以下については、傾斜を緩やかにした石積み
  - ・中に栗石を入れると反射波を消す効果、カニの住処に
- H. W. L. 以上、H. H. W. L. については、階段状に。
  - ・内部は石積みかブロック、かごマットで表面は砂や土に。
  - ・バリエーションとしてタイドプールや湿地、海浜植物など



< 塩浜2丁目の護岸の改善提案(Aケース:現況の境界線を前提) >



## 2 改善による効果

### <粗朶沈床と緩傾斜化による改善点>

<潮間帯> 粗朶沈床および緩傾斜化により将来砂が付きやすくなる。

- ①海と陸が連続した生態系の創出
- ②将来、干潟的環境に棲む生物相が生息する可能性
- ③海への安全なアクセスの確保 ④やさしい景観
- ⑤将来の長期計画に支障のない構造

<H. W. L. 以上、H. H. W. L.>

表面を砂や土にすることで多様な環境を創出できる可能性

- ①海浜植物などの植生の復活の可能性
- ②将来地形の変更が容易(アレンジが可能)

### < 塩浜2丁目の護岸の改善提案(Bケース:まちづくりに配慮した断面) >

